

「……………」

困惑気味の少女に、自慰をするような態勢で  
事切れている男。大体の展開は、想像通りだろう。

どの程度、手を動かすことが出来たのか。

（まあ、気にすることではないな）

「うう……」


「何で、この人……ちよっと、安らかだし……」

『コレ、背中、かかってるよね。血も、生温かいし』

不必要ではあるが、指導の通りに  
しばらくはあのままにいるようだ。





A blue-haired anime girl with bangs is lying on her back on a dark, patterned cloth. She is unclothed and has a bloody wound on her upper chest. Her eyes are closed, and she has a pained expression. A hand is visible near her head. The background is dark and indistinct.

「早く、湯浴みしたい……」



「えーっと……」

何がしたいの？」

「舌入れたまま動けなく  
なってる。気持ち悪い……」





「こちらも、同じような塩梅か。」

「首、折っちゃう？」

「お願い。見るに堪えないわ」





「うん」

#

///

パ○



「ま、本人的には  
幸せだよね……」

「へえ……何か……  
少しだけ舌動いてる」

「……」



「もう致死量は超えている……  
舐めると苦しさが増すだけだぞ？」

「……………」





「こっち意味なくない？」

途中で代わってよ……」

「面倒臭いって……」







「～うん」



『……………』

どうにも、慣れないな……』

『……………』

少女達は、淡々と事を済ませていく。





「私の足の裏、美味しいですかあ？」

「好きなだけ、ペロペロ  
していいですよお……」

「れっ……お……」

「んっ……っ」







「……お」  
「……お」



「……………間抜け面」

「……………」





「もう動けない、か……」

何？ もしかして舐めたい？

余計、苦しむことになるけど？」

「あ……あ……」





「んっ……」

「んっ……んっ」





「へえ……舌先は、  
ちよつと動くんだね」

『……』









「……血、吐きながら、  
まだ舐めるんだね……  
分かんないなあ……」

「……あ……」





